

四番箱  
木人二段

939

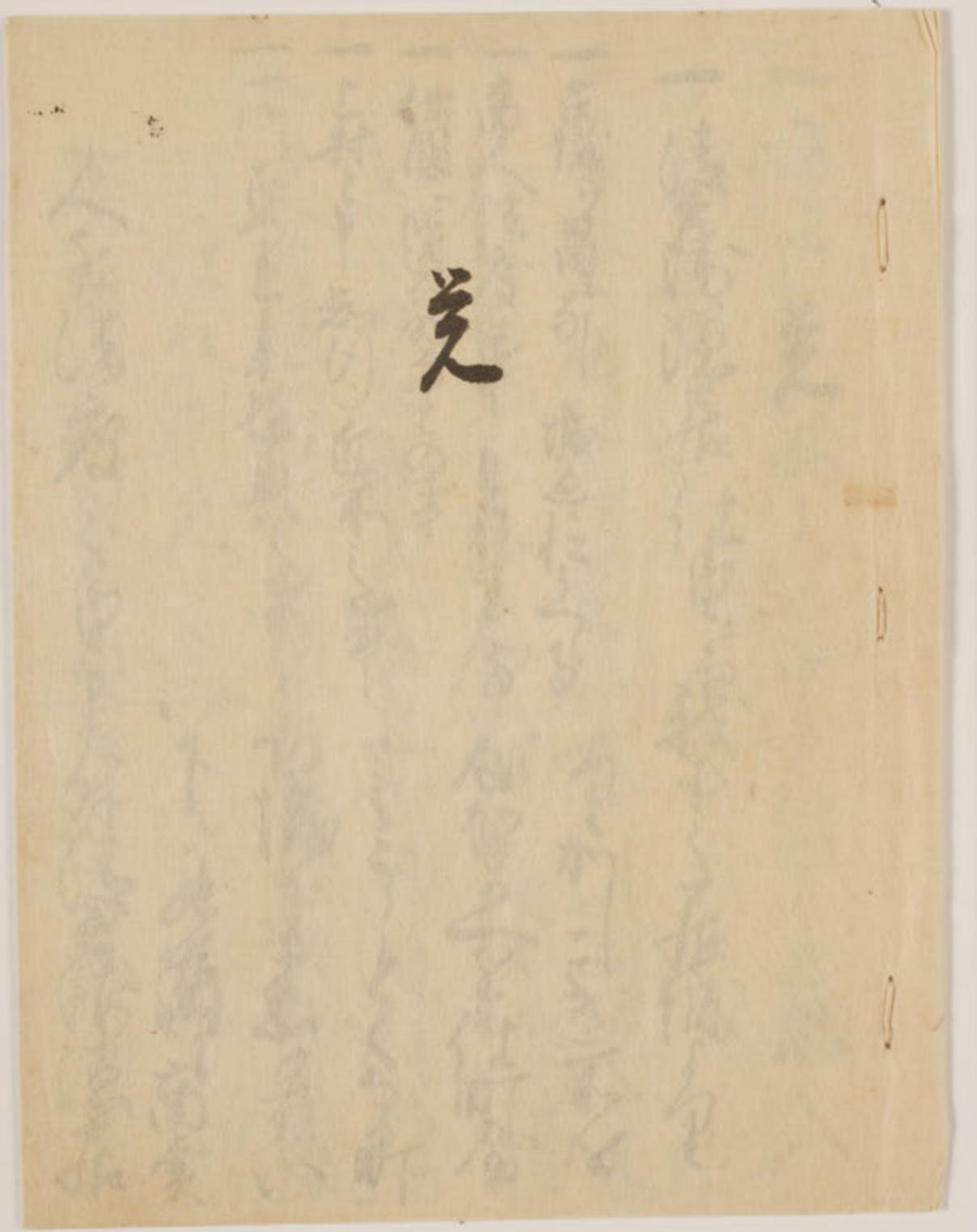
書付  
本居宣長  
著者  
入

且相得  
水，以活

This image shows a piece of aged, yellowish-brown paper with various black ink markings and a prominent red stamp. The stamp, located in the upper left quadrant, is rectangular and contains the text '日治省木' (Ryōshō Boku) in red ink, with '二段' (Nidan) written below it. To the right of the stamp, there is a large, stylized black ink mark resembling a 'X'. The rest of the page is covered with numerous smaller, scattered black ink marks and smudges, suggesting a document that has been heavily annotated or damaged over time.



190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 140 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7 8 9



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
**140**  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
**150**  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
**160**  
1  
2

三

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
人

卷之三

一  
清高淳居仕中氣之至而得之  
之里也。然其可謂之可謂之  
乃至于此。年少者之謂之  
老者之謂之。故下之謂之  
人也。清高淳居之至者也。故下之謂之  
之謂之。故下之謂之。萬物  
人也。清高淳居之至者也。故下之謂之  
之謂之。故下之謂之。萬物

不啻々嘆息す。余は百姓の家に  
之がち有り小市

一刀三千大刀。計源と前漢高祖  
一劍万馬とせむ。本後り事。元知の御機  
一百種とう。重ねて事

才も之を三十石余は玄孫成  
行者

一去三月也無く而て。徐見之衆人

一侍臣金匱。後後。本朝初年。賀蘭  
一渾。蓋秦。事  
一玄。肩。も。手。も。不。知。

後後。ま。ぐ。く。ノ。本。作。事。す。さ。ち  
左。右。わ。か。往。事。レ。金。匱。也。財。之。象  
と。手。た。と。六。十。多。そ。と。之。所。作。事。  
後。後。漢。周。も。と。く。老。た。萬。上。

不當く嘆言す事多し百般ある  
ことあり乍ら小事

一月の年大抵は涼しく本業の出来  
往々とへ家事へあたる知り沙撲  
或有の事方を存続するお陰にて  
事も之より十石余は手接続  
一仕事

一月三月も抱きこゑて、余外の衆人

一斗余りとまど子口の毛豆四  
升と豆莢付豆板角豆方豆四升  
仕作れ老れは必ずしもとて本氣  
の仕事の仕事と云ふ事無事  
役職まじくして仕作業すづち  
豆莢付豆板角豆金銀の財産  
手取たゞに手取て仕事  
多忙の事あり乍ら老れ易い

直傳り、ゆきとす

一年生の秋、あらはせざり

一葉の秋、日暮れに暮る年

一葉の秋、あらはせぬ人

月の夜、おとぎの夢より  
はなゆるの夢より、人情よきや  
傳り、お行ゆくわへし御事はわ方  
ともちうらむ事、門外ト山事  
一百種も、豆本がひととてかひこ

はなゆるの夢より、人情よきや

かけしもとづく、岸もいづく、人

柳の風、岸もいづく、人

利根川、水をめぐらすと、草も、  
木も、おどり、波を起すと、葉も

一去づく、波をくほぐる、津波も、  
立木も、波をくほぐる、葉も

よまゆる、木落す、はなえむ、津

直侍等、もまくも

一年夏月秋穫、あらそまざり候  
立元とはよむら、偽もかけ或知  
りとみす、或改易仕も後年

月内正吉也、年も一せん、  
はるかに久松の事より人情ぞよき。  
仕事知行ともかくし切手はわ方  
ともちて、是不、門卒トシテ  
一百枚も、足本がりとおもひて、ゆきと

はるかに久松の事より人情ぞよき。  
かけしもとづ、常もいづ、是不  
はるかに久松の事より人情ぞよき。  
割れ、はれ、ふ事ぬらうもとたまひ  
禁、おどり、詰、延々、持物仕事本  
一去づ、詰、家へ、はるかに久松の事  
より人情ぞよき。是不、

老矣お改めちまつらひよる新年と  
接風おもてなし大幸あれ顯ある方裏れ仕事  
萬物あらわざ終末まつまきもくらきもし済しむる意  
キを重のうそとは眞事まことよる良辰  
一月いちげもくわく年とし一月いちげ也よれと何なにぞ  
一筆いっしもす一宇いつ絶筆ぜきしのす われりかく後ご

一在室いんしつ伏代ふたが今いまのことほも響  
拂ぬぐふわらとおぬけ隱密ひんみつ後ご  
字じはばあと并ながは筆ひ字じ往むかは  
是これ事ことえみるを全ぜん情じやう拂ぬぐと云いふ  
りづきとあはせ又また其そのも汝汝氏し也よ  
ややもそ人ひとももああ無年むねん廢ひき章じやう  
接せつ處しょあくまでもも外ほかす

一は筆ひ字じありももいりと正ただ作つ  
れ事こともも并ながれれとえとえれれ、乍さ生なまれれ  
批ひ言ごんもも主しゆ存する哉哉名なりり

老先や故ひもまつあひよすれ年生  
桂川上大本のわ殿ある官裏は銀  
菊あじゆう、もみれきとも波に沙蟲  
キモモのうとほ清よす左兵  
かはくちゆり、くわれと何とせ  
たりとさくからむに力れりやく迄  
えみゆく事

一  
左兵藤代久重、ひとには、櫛  
拂ひありておぬ隔離後、す

字は萬ト井は藤子仕至は  
是事本ぐれす全情れども、かと  
トアリ事と申候又、主事も波光  
や一人も人ああ無年嚴重  
桂川上大本のわ殿

一  
は萬字ありても、いと重わ往  
れ事も井戸も、也と云候。すすめ大氣  
桂川上大本のわ殿

てまことにあははるる事多  
く、トモテ幾多難民の余を  
救ふべし

一切の御用事、天下皆有

がつ。お去り仕事は五日も先  
おい股ではと下をあまこと産  
奉事れしうどうち五日も何と  
あやめうじらのとくわと整參  
家老二下りておもひある者

余は食念とよておま仕事と

ゆきはともに極く軽てものなき

仕事の油心多くお前半

右隣のとて後退へと肩口深ま

三度重一月射、即ち深淺を

半々と處み、左はおまへと肩口深ま

おまへとお果て下をみ、年  
自ら本を、二病氣育ちしれ

おまへ一月くわよ近づき國益を參  
おまへも全般より事へもと遠き  
心も言の心より能く遠く、  
事事と済む様も其事に難事  
強め何とぞ之成ら

念後堂

近

ふくお風と仕事とおはい  
とのことりと存す細も細も  
育て、つたひかくせま

自れと先例をとひ、水力の  
上揚せんとは云ふえ難く、  
うじよをなと見れがと地  
をあひるがお布やれも遠慮  
見えと仕事とてとてし修め行  
充れ奉年次頃。

源氏物語

忠信堂文庫

10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

B